

「望みあり 力あり 光あり」

学習指導要領

第6次山形県教育振興計画

「人間力に満ちあふれ、山形の未来をひらく人づくり」
「つなぐ」～いのち 学び 地域～
＜めざす人間像＞
「いのち」をつなぐ人 学び続ける人
地域とつながる人
－広い視野と高い志を持って－

酒田市学校教育の重点

めざす子ども像

（知・徳・体の調和）

- 進んで学び合う子ども
- 心豊かな子ども
- 丈夫でたくましい子ども

児童のよさ◎・育てたい力△

- ◎物事に真面目に取り組む。
- ◎本に親しむ子どもが多い。
- ◎元氣な挨拶、思いやりの心が育っている。
- ◎外で元気に遊ぶ子ども多い。
- △メディアをコントロールする力
- △投力、筋力をつけたい。

学校研究

「読む力を高め、学び合う授業の創造」
～国語科：自作教材（問題）の活用を通して～

読書活動の充実

体験活動の充実

☆指導の重点と具体的行動目標

学ぶ力育成部	【確かな学力と授業改善】	(1) 話し合いを深めるための国語大魔王の活用と評価 (2) 家庭と連携した家庭学習（自主・新聞・算数大魔王）への取り組み (3) 読む力を高めるための読書ノート活用の活用
	【視野を広げていく学習の充実】	(1) 地域のすばらしさを体感する総合的な学習・生活科の取り組み (2) ゲストティーチャーと関わることで視野を広げる学習活動 (3) 地域とのかかわりを視野に入れた全校ボランティア活動の取り組み
	【読書活動の充実】	(1) 意図的な読書時間の確保 (2) 読書ノートを活用した異学年交流 (3) 児童がたくさんの本を手取る工夫
豊かな心と体育部	【高め合う集団づくりと「公益」の心の涵養】	(1) QI を活かした学級経営の推進 (2) 計画的・意図的な異学年交流と児童会（委員会）活動の活性化 (3) 学年ボランティア活動の実践を通じた公益の心の涵養
	【教育相談・特別支援教育の推進】	(1) 特別支援の視点に立った児童理解自立支援（＊担任の視点） (2) 課題解決に向けたチームによる相談体制の確立（＊組織の視点）
	【心身の健康の保持増進】	(1) 教科体育における目的意識の喚起と苦手領域の克服 (2) メディアをコントロールする力の育成
	【安全教育と食育の充実】	(1) 「自分の命は自分で守る」判断力をつける体制の充実 (2) 感謝の気持ちを高める食育の充実（感謝の挨拶、美しい配膳）

教務部 【家庭・地域・関係機関との連携】

- (1) 学校評価や地域の願いを生かした教育活動の推進
- (2) 研修活動の充実（校内研修・PTAの研修活動）
- (3) 幼保小、中との連携の充実と地域への積極的な情報発信
- (4) 地域の各機関との連携（コミュニティー振興会、読み聞かせ隊、百人一首関係団体）

☆経営の土台：子どもと向き合い、家庭・地域に開かれた、信頼される学校づくり

平成29年度 指導の重点と具体的行動目標・めざす児童の姿

組織	指導の重点	具体的行動目標	めざす児童の姿（評価基準）教師の取り組み
学 ぶ 力 育 成 部	①「確かな学力」 を育成するための 授業改善	(1) 話し合いを深めるための国語大魔王の活用と評価	吟味した予習課題に取り組ませることで、ねらいとする授業展開を行い、目標を達成できた。
		(2) 家庭と連携した家庭学習（自主学習、新聞・算数大魔王への取り組み	1週間の家庭学習のリズムを整え、家庭と協力して取り組ませることができた。
		(3) 国語大魔王を通した単元マネジメントの充実	つきたい力を明確にし、単元を見通した教材研究を行い、授業を展開できた。
	②地域や社会の中で自分を見つめ、視野を広げていく学習の充実	(1) 地域のすばらしさを体感する総合的な学習・生活科の取り組み	地域について主体的に調べる学習を仕組み行うことで、地域のよさやすばらしさを感じさせることができた。
		(2) ゲストティーチャーと関わることで視野を広げる学習活動	年計画をもとにゲストティーチャーと関わる学習活動を行うことができた。
		(3) 地域とのかかわりを視野に入れた全校ボランティア活動の取り組み	地域の思いを知り、地域とのかかわりを意識したボランティア活動に取り組ませることができた。
	③学びを豊かにする読書指導の充実と、読書に親しめる環境の充実	(1) 意図的な読書時間の確保	朝、授業中、隙間の時間など、読書時間を意図的に確保することができた。
		(2) 読書ノートを活用した異学年交流	読書ノートを活用し異学年で学び合うことができた。
		(3) 児童がたくさんの本を手にする工夫	年間貸し出し冊数 180 冊（低：300 中：200 高 100 冊）を達成する工夫をした。
豊 か な 心 と 体 育 成 部	①高め合う集団づくりと「公益」の心の涵養	(1) Q Uを活かした学級経営の推進	QU等を通して児童の人間関係を把握し、高め合う活動を仕組むことができた。
		(2) 計画的、意図的な異学年交流と児童会（委員会）の活性化	①学年・学校行事を通して、上の学年のリーダーシップを育てることができた。 ②一人ひとりが児童会活動に進んで取り組み、企画・運営に携わることができた。
		(3) 学年ボランティア行動の実践を通した公益の心の涵養	地域や学校などみんなのことを思い、自分で考えたり学年で協力したりして行動し、振り返って次に生かすことができた。
	②教育相談・特別支援教育が一体となった生徒指導の推進	(1) 特別支援教育の視点に立った児童理解と個別支援（＊担任指導の視点で）	個々の「困り感」やニーズを捉え、その解決に向けて取り組むことができた。
		(2) 課題解決に向けたチームによる相談体制の確立（＊組織としての動きの視点で）	支援を要する児童について、チームによる対応を行い、継続して支援を行うことができた。
	①心身の健康の保持増進をめざす実践力の育成	(1) 教科体育における目的意識の喚起と苦手領域の克服	投力、筋力を高める環境づくりを行うことで、児童が自分の目標に向かって努力することができた。
		(2) 家庭を巻き込んだメディアをコントロールする力の育成	学校保健委員会や学年 PTA と連携し、メディアについての目標を設定し達成に向けて取り組むことができた。
	②安全教育と食育の充実	(1) 「自分の命は自分で守る」判断力をつける体制の充実	避難訓練や交通安全教室等で、状況に応じて自分の身を守る方法が分かり、行動に移すことができた。
		(2) 感謝の気持ちを高める食育の充実（感謝の挨拶・美しい配膳）	感謝の気持ちを表すために、美しい配膳や進んで挨拶をすることができた。